

# 花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく4

国立市立国立第七小学校

平成28年4月15日 NO.6 (306)

アインシュタイン「はい！国立第七小学校の

みなさん。こんにちは！」

花ちゃん 「あなたはだれですか。」

アインシュタイン「わたしは、アインシュタインだ。」

オー君 「聞いたことないなー。」

花ちゃん 「どうして、登場したのですか？」

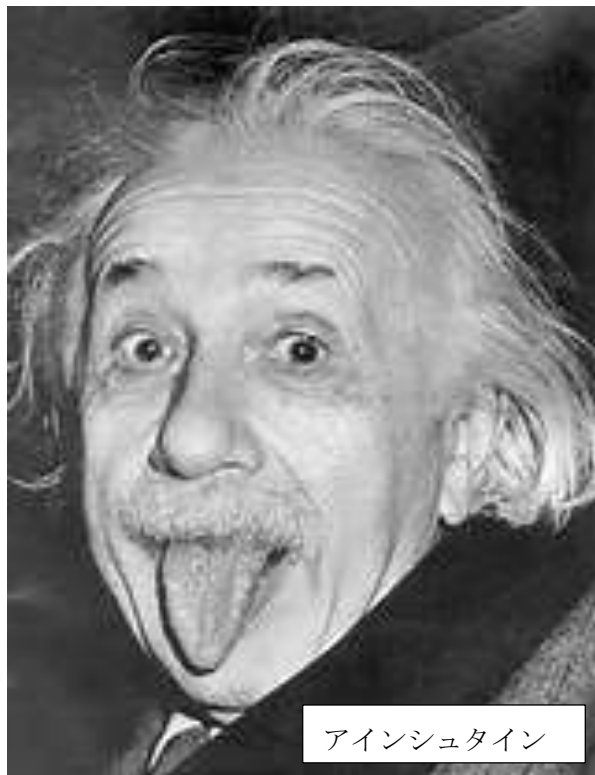
アインシュタイン「モンタ博士がね、『国立てくてく』

に『てくてく偉人伝シリーズ』と

して、科学の発展につくした人を

紹介するために、ちょっと来て

くれとお願いされたんだよ。」



花ちゃん 「へえー。ということは、あなたは偉人、つまり、えらい人というわけですね。」

アインシュタイン「まあ、そういわれるとちょっとはすかしいけどね、『知の巨人』とかいわれているんだよ。」

モンタ博士 「それから、もう1つ理由があるんですよ。」

アインシュタイン「もしかして、明日がわたしの誕生日だからですか。モンタ博士。」

モンタ博士 「ピンポン。そのとおり。お誕生日おめでとうございます。」

アインシュタイン「どうもありがとう。モンタ博士。」

花ちゃん 「ところで、アインシュタインさん！偉人というのは、えらい人ということですが、どんなえらいことをしたのですか。」

モンタ博士 「それでは、アインシュタインさんに、小さいころからは、どんな様子だったかをお話をしてもらいましょう。」

オー君 「本名は、生まれた国は、子供のころはどんな子だったのですか。」

アインシュタイン「<sup>なまえ</sup>名前は、アルベルト・アインシュタイン。1879<sup>ねん</sup>年4月16日にドイツ  
に<sup>う</sup>生まれ、3才までは<sup>ことば</sup>言葉が<sup>はな</sup>話せず、お母さんも<sup>しんぱい</sup>心配したそうなんだ。」

花ちゃん「<sup>ちい</sup>小さいころから<sup>てんさい</sup>天才だったわけではないのですね。」

アインシュタイン「5才のころ、お父さんにもらった<sup>ほういじしん</sup>方位磁針の針が、いつも北を指すのを見  
て<sup>きょうみ</sup>興味をもったんだよ。そして、いつも、なぜだろう？どうしてかな？  
と<sup>かんが</sup>考える<sup>こども</sup>子供だったんだ。」

オー君「つまり、<sup>こうきしん</sup>好奇心いっぱいの<sup>こども</sup>子供だったということですね。」

アインシュタイン「<sup>しょうがくせい</sup>小学生のころは、しゃべりかたがおそく、<sup>ともだち</sup>友達から<sup>なかま</sup>仲間はずれにさ  
れたこともあったんだ。でも、<sup>さんすう</sup>算数だけは、とっても<sup>す</sup>好きだったね。」

花ちゃん「何か1つ、<sup>す</sup>好きなもの、<sup>じまん</sup>自慢できるものがあることはいいことですね。」

アインシュタイン「その後、<sup>ご</sup>大学を<sup>だいがく</sup>卒業しても<sup>そつぎょう</sup>なかなか<sup>しごと</sup>仕事が見つからず、<sup>やく</sup>やっとあるお役  
所につとめたんだ。仕事の<sup>しごと</sup>時<sup>とき</sup>い<sup>じぶん</sup>がいは、<sup>へや</sup>自分のお部屋や<sup>こうえん</sup>公園のベンチなど、  
いつでもどこでも<sup>じぶん</sup>自分の<sup>す</sup>好きな<sup>ぶつりがく</sup>物理学の<sup>けんきゅう</sup>研究をしていたんだ。」

オー君「へえー。すごい<sup>べんきょうか</sup>勉強家だったんですね。その後<sup>あと</sup>どうしたのですか。」

アインシュタイン「これからは、<sup>しょうがくせい</sup>小学生には<sup>むずか</sup>め<sup>むずか</sup>ちゃく<sup>むずか</sup>ちゃ<sup>むずか</sup>難しいけど、<sup>むずか</sup>がまんしてわたしの  
<sup>そうたいせいりろん</sup>相対性理論を<sup>き</sup>聞いてくれるかな。」

オー君「<sup>そうたいせいりろん</sup>相対性理論？<sup>なん</sup>何だそりゃ。」

アインシュタイン「つまり、<sup>じかん</sup>時間や<sup>なが</sup>ものの<sup>なが</sup>長さは、<sup>なが</sup>かわらないものではなく、それを<sup>なが</sup>はかろう  
としている<sup>ひと</sup>人の<sup>うご</sup>動きによって<sup>かんが</sup>かわる、という<sup>かんが</sup>考<sup>かた</sup>え方だよ。」

花ちゃん「時間？長さ？人の動き？・・・どういうことですか。」

アインシュタイン「たとえば、<sup>ひかり</sup>光に<sup>ちか</sup>近い<sup>すす</sup>スピードで<sup>すす</sup>進むと、<sup>じかん</sup>時間の<sup>すす</sup>進み方は<sup>かた</sup>おそくなり、<sup>ひかり</sup>光  
の<sup>はや</sup>速さに<sup>ちか</sup>近い<sup>すす</sup>スピードで<sup>すす</sup>進むものは、<sup>すす</sup>進む<sup>ほうこう</sup>方向に対して、<sup>なが</sup>長さが<sup>みじか</sup>短<sup>みじか</sup>くなっ  
たように見えるということさ。この<sup>かんが</sup>考<sup>かた</sup>え方をもとにすると、<sup>かた</sup>タイムマシン  
で<sup>みらい</sup>未来へ<sup>い</sup>行くこともできるんだ。また、<sup>み</sup>見る<sup>こと</sup>ことのできない<sup>とお</sup>遠い<sup>うちゅう</sup>宇宙の<sup>しく</sup>仕組  
みを<sup>せつめい</sup>説明することもできるんだ。そして、<sup>しょう</sup>ノーベル<sup>しょう</sup>賞ももらったけど、こ  
の<sup>かんが</sup>考<sup>かた</sup>え方をもとに、<sup>げんしばくだん</sup>アメリカは<sup>つく</sup>原子爆弾を作ってしまったんだ。その後は、  
<sup>げんしばくだん</sup>原子爆弾がなくなるように、<sup>せかい</sup>世界が<sup>へいわ</sup>平和になるように<sup>うった</sup>訴えつづけたんだ。」